

地域医療連携室

# フレンディーだより

*Community medicine cooperation room*



院内やすらぎ事業 “クリスマスコンサート” (H23.12.21)



2012

vol. 39

H24.2 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

# 通院治療室 (外来化学療法室) のご紹介



がん診療センター所長 桐山 正人

当院は平成19年1月31日付で、厚生労働大臣から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。この拠点病院の役割は専門的ながん医療の提供、がん患者に対する相談支援および情報提供、「難治性がん」に対する新たな集学的治療の開発・実践、緩和ケアの提供など、がんに関する多種多岐にわたる部門での役割があります。これら各部門が密接に連携することでより良いがん診療が提供できるものと考え、平成23年4月にこれら部門を統括するがん診療センターが院内に組織されました。今回はこれら部門の中で“外来化学療法”を担っている通院治療室について紹介します。

がん化学療法（抗がん剤、分子標的薬などによる治療）は、以前は入院して行うのが一般的でした。しかし近年は施設・設備の充実、抗がん剤の安全な使用法や副作用に対する支持療法が確立したため、医師以外の看護師・薬剤師・その他のコメディカルの協力の下に、安全に安心して外来でも化学療法が受けられるようになりました。当院では平成20年1月31日に通院治療室を開設し、外来化学療法を開始しました。現在、通院治療室には専従看護師2名（内、がん化学療法看護認定看護師1名）が常時勤務し、専任薬剤師1名（がん薬物療法認定薬剤師）がバックアップしています。使用する薬剤や投与方法（レジメン）は治療するがんの種類によって異なり、当院の通院治療室にはガイドラインで推奨されていたり、治療効果が確認されている各種がんのレジメン143種類（平成23年12月末日現在）が登録されています。





2009年4月から2011年12月までに施行された外来化学療法のべ回数は、1800～1900回／年（図1：23年度は9カ月間）で、疾患としては消化器がんを中心として乳がん、肺がん、婦人科がん、泌尿器科、耳鼻咽喉科、血液内科関連のがんなど、はば広い領域にわたっています（図2：23年度は9カ月間）。

現在通院治療室はやや手狭なスペースに、ベッド3床、リクライニングシート3床を設置し、計6床で運用していますが、新しく出来る外来棟ではゆったりとしたスペースに15床を設置する予定です。

図1

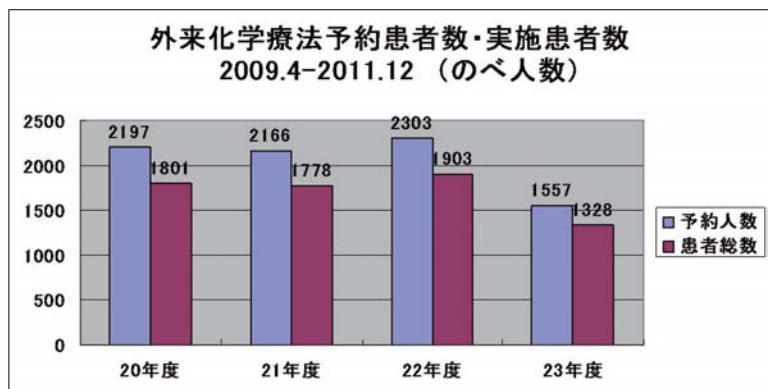
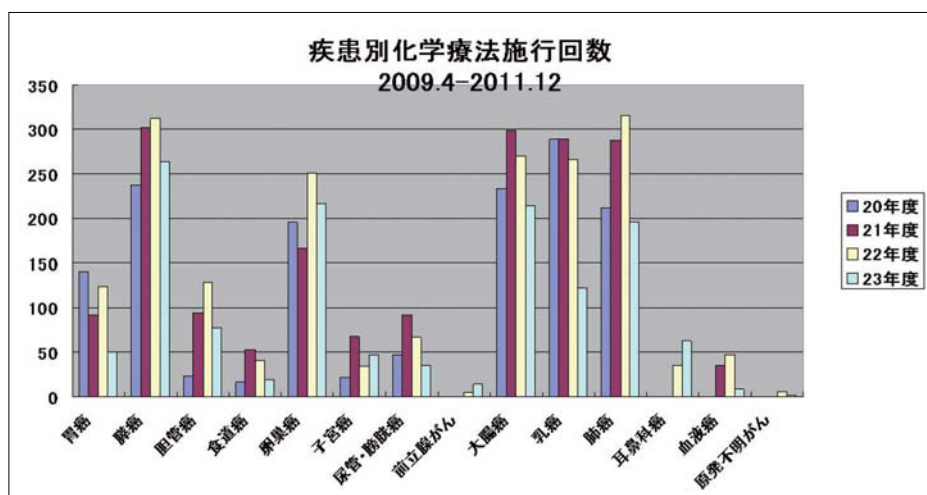


図2



# Drへズーム

～昨年10月より着任のドクターへ質問～

Q1. 余暇はどのように過ごされていますか？  
(趣味・スポーツ・ストレス発散法など)

Q2. 黒部散策(地、味)されましたか？

Q3. 当院着任から数カ月経ちましたが、感想などいただけますか？

A1. 余暇は借りてきたDVDや映画館での映画鑑賞で時間を費やしています。また、週2回程度は家内と近くの公園に出かけて、会話を楽しみながら(グチを聞きながら?)のウォーキングもやるようにしています。これは、自分だけでなく、家内のストレス発散にも寄与しているようで、夫婦円満にもつながっているものと信じて励行しております。

A2. 居酒屋散策が趣味で、メタボにも留意しつつ、可能な限り励行するようにしております。

A3. これまで富山大学で婦人科癌や手術(特に腹腔鏡手術)を中心にやってまいりました。黒部市民病院は自分にとっても大変働きやすい環境が整っているように思います。そうは言っても特に、婦人科癌においては緩和ケア含めて地域の先生方の助けなしではなかなかうまくいきません。患者様のQOLやADLの向上のみならず、精神的ケアも含め、患者様に少しでも満足していただけるような医療を実践していくためにも地域の先生方との連携を密にして頑張っていきたいと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

産婦人科 部長  
ひだか たかお  
日高 隆雄先生



A1. 時々富山や高岡に帰ります。

A2. 近くのお店で美味しい魚が食べられるので嬉しいです。

A3. 皆さんにお世話になりながら、日々勤務しております。ご迷惑をかけることも多いですが、頑張りますのでよろしくお願い致します。

産婦人科 医師  
たけむら きょうこ  
竹村 京子先生





## 平成23年度新川医療圏結核予防医師研修会 開催される

さる11月30日（水）、黒部市民病院講堂において平成23年度新川医療圏結核予防医師研修会が開催されました。

初めに新川厚生センター横川所長から管内の結核の現状についてお話がありました。管内では新規発生患者数は減少傾向にあるものの、その減少スピードは徐々に緩やかになる傾向にあるとのことでした。

続いて結核研究所臨床・疫学部長伊藤邦彦先生から「結核の診断・治療と感染対策」と題してご講演いただきました。結核の診断は喀痰検査などで結核菌を証明することに尽きます。一方、結核は特徴的な臨床症状や画像・検査所見に乏しい疾患であることから、その診断においては常に結核も念頭において診療にあたる必要があります。また画像所見は抗結核薬を投与しなくても入院して安静にするだけで一時的に改善傾向を示すことがあるので、結核を通常の肺炎と間違ってしまう危険性があるので注意を要するとのことでした。院内感染対策としては、2週以上持続する咳や胸部レントゲン写真に陰影を認めたら速やかに喀痰抗酸菌検査を行うなど患者の早期発見に努めること、室内の換気を十分にすることで空気中の結核菌濃度を下げることの重要性を強調されました。

管内の各医療機関から医師をはじめ看護師・保健師など多くの皆さんの参加を得て、盛会のうちに終了しました。

## 平成23年度 がん患者在宅療養支援事例検討会

平成23年11月25日（金）、黒部市民病院において、がん患者在宅療養支援事例検討会がひらかれました。黒部市民病院外科部長・がん診療センター所長である桐山正人先生の司会のもと約90分検討会が行われました。事例はがんの進行のため食べられなくなった患者が強く在宅療養を希望されその想いを叶えるために入院をしてCVポートを入れ1週間で自宅へ退院したというものでした。患者の家へ帰りたいたいという想いに妻が寄り添いその想いを病院での主治医が叶えようと連携室に準備を依頼、ケアマネジャーと訪問看護師が心身共に支援を行いながら在宅においては地域の友人達に支援され、妻とともに営んでいた大好きな自営業を傍らに感じながら妻に味付けのアドバイスを行いました。妻は訪問看護師から手ほどきを受けてむくんだ大きな足をさすり最期まで尿量が保てたという事例でありました。病院主治医、連携室、かかりつけ医、ケアマネジャー、訪問看護師の5人の発表によりそれぞれの立場から家に帰りたかった患者をどのように支援したかを発表し、在宅療養を支える為の具体的な支援方法や連携のあり方について会場の参加者全体が考えさせられた事例でありました。今回は在宅療養に向けて短い時間の中で精神的な支援を行う困難さとその捉え方について意見交換が行われとても有意義な時間であったと思われました。



お知らせ



## 放射線治療患者さまを ご紹介いただく際の受診の流れ

放射線治療（リニアック）患者さまをご紹介いただく際は、必ず地域医療連携室（フレンディー）を通して受診の予約をお願いします。

また、当院は放射線治療医が非常勤であるため、現在初診日は毎週火曜日の午前中のみとさせていただきます。この初診時の予約をしていただく際の紹介状の宛名は、放射線治療室以外の当院各科外来宛でお願いします。各科の主治医経由で院内紹介という形で放射線治療室を受診していただきます。

お手数をお掛け致しますが、上記流れでご紹介いただきたくよろしくお願ひ致します。

### 講演・勉強会のご案内

#### 1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日  
午後6：30～  
午後8：00  
場所：本館3階 指導室

#### 2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日  
午後6：45～  
午後7：45  
場所：本館3階 指導室

#### 3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日  
午後6：40～  
場所：本館3階 指導室